

# 繁根木に眠る 五世紀の王は

## 大量・多彩な武器と金の耳飾りを持つていた。

玉名市指定史跡 伝左山古墳

繁根木にある伝左山古墳は、今から1500年以上前、5世紀の後半に築かれた地域の支配者のお墓です。直径約35cm、高さ約5mもの大きさがあり、石を積み上げて造られたドーム型の石室と、石をくり抜いて造られた舟形石棺に複数の遺体が納められています。埋葬された人物は質・量とも県内トップクラスの武器を持ち、軍事的活動に関与しながらヤマト政権との政治的な繋がりも持つ有力者だったと考えられます。朝鮮半島製の金の耳飾りと大刀もあり、海を越えた広範な活動もうかがわれます。古墳は江戸時代に偶然発見された後、祠が建てられ、現在まで大切に守られてきました。数度にわたって出土した副葬品は、その重要さから東京国立博物館や熊本博物館に收藏されることに、本博物館に収蔵されることにより、多両館では現在も展示され、多くの人の目に触れています。



玉名市立歴史博物館

過去の企画展のポスター。遺体が納められていた古墳内部の石室は、先進的な構造で壁面は真っ赤に塗られている。石室、石棺ともに埋め戻されており、現地での見学はできません。



金の耳飾り  
(東京国立博物館蔵)



ガラスや碧玉製の首飾り  
(歴史博物館ころもピア蔵)



大刀と朝鮮半島製の素環頭大刀  
(歴史博物館ころもピア蔵)



鉄製のよろい (紙留短甲)  
(熊本博物館蔵)

※副葬品の写真や古墳の概要をまとめた『伝左山古墳出土品図録』を歴史博物館ころもピア (☎74・3989) で販売中。

伝左山古墳の出土品が  
展示されています！

それは遠い過去からのメッセージ。  
**熊本市立熊本博物館**

2018年12月  
リニューアル  
オープン

伝左山古墳から出土した甲冑(短甲・脛当て)と貝釧(貝の腕輪)は昨年12月にリニューアルオープンした熊本博物館で常設展示中です。さらに、岱明町開田にかつて存在した前方後円墳「院塚古墳」の舟形石棺出土の銅鏡や、繁根木の第1保育所前にあった箱式石棺(繁根木古墳)出土の銅鏡も展示されています。

**場所** 熊本市中央区古京町3-2 (熊本城北西側)  
**開館時間** 午前9時~午後5時 (入場は午後4時半まで)  
**休館日** 月曜日 (祝日の場合は翌日)  
12月29日~1月3日  
**入場料金** 大人: 400円、高・大生: 300円、  
中学生以下: 200円

明治時代に出土した伝左山古墳の副葬品は、熊本城保存顕彰会や熊本大学の所蔵となり、その後熊本博物館に寄託されて現在にいらっています。